

令和八年 弥生 782号

# よつぎ なつかた

## 目次

今月のおまつり・ご案内  
桃の節句 ひな祭り  
宗像みあれ市  
神宝館だより・みどころ  
宗像大社歌会詠草  
御造営奉賛者御芳名

7 7 6 5 4 3・2

よつぎ ある地域の学校で、

国歌「君が代」の歌唱指導が適切に行われているかが議論となった。もし子供たちが学校で教わっていないために歌えないとすれば、教育の在り方として看過できない問題である。文部科学省の学習指導要領では、入学式や卒業式などの式典において国歌を斉唱できるよう指導することが求められており、これは学校教育の基本的な役割の一つとされている。内心の自由は尊重されるべきであるが、歌うことを強制すること、歌を教えないことは本来別の問題である。正しく教え、理解する機会を与えることは教育の責務といえよう▼「君が代」は平安時代初期に編纂された『古今和歌集』に収められた詠み人知らずの和歌をもとにしている。長い年月を経て国歌となったこの歌は、一般に人々の平安や長久を願う意味を持つと解され、日本人の祈りの心を今に伝えている▼卒業の季節を迎え、人生の節目に立つ子供たちが、自国の歴史と文化に触れ、その歩みの中に自らを見出し、感謝と誇りの心を育んでいく環境が一層整うことを願いたいものである。(長)

## 今月のおまつり

### 氏貞公墓前祭うじさだこうぼぜんさい

三月四日(水)十一時

氏貞公墓前(宗像市上八四二四―三)

例年三月四日は当社第八十大宮司宗像氏貞公墓前祭が斎行されている。

この墓前祭は氏貞公逝去四百年忌にあたる昭和六十一年に当大社と菩提寺である承福寺との協議により神道式と仏式で隔年毎に墓前祭を奉仕する事が定められ、今に至っている。宗像家へ仕え又、代々墓守を務めてきた占部家、更には墓所のある上八今門地区の人々参列のもと、氏貞公の威徳を偲んでいる。

宗像大社の大宮司職を努めていた宗像家。最後の大宮司となった、宗像氏貞は天文二十年(二五五年)、七歳で山口の黒川から宗像家に入り、家臣団の軋轢のなか、家督を継ぎ、宗像家第八十代の大宮司職となる。在職三十四年、社務をつかさどり、武将と神職の両面にわたって功績を残した英傑であった。外部に

もその名を知られたが、群民に対しても恵み深い政治を行ったので領内の人々から信頼も集めた。

弘治三年(一五五七)本殿内陣よりあがった火は本殿・拜殿を焼き多くの神宝が灰塵に帰した。それから約二十年の時を置き、天正六年(二五七八)に氏貞公が厳しい情勢の中再建された。これが現在の辺津宮本殿である。この他にも神郡内の荒廃した社寺の復興、現在の上八辺りの田地を御神米用地として寄進、神社の改革(祭祀の厳正化等)等、宗像大神の神威の護持に努めた。しかし、志も半ばの四十二歳の時、病没する。侵略の隙を与えないよう、その死は三年間秘匿される事になり、亡骸は側近により密かに現在の地へ埋葬され、代々占部家の一族が守ってきた。その後跡継ぎの居ない宗像大宮司家は断絶となった。

墓前祭を通し戦国乱世の混迷する時代に大社を守り抜いた中興の祖・氏貞公の生涯に思いをはせ更なる神道教化に心を尽くしたい。



## 皇靈殿遥拝式こうれいでんようはいしき

三月二十日 十時 辺津宮本殿横

歴代天皇・皇后・皇親等の御霊をお祀りする皇居内の皇靈殿において、天皇陛下御親らお祭りを執り行わせられるにつき、当社においても遙拝式を行います。

## 春分の日について

春分の日は国民の祝日であり、「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日と定められている。

もとは宮中祭祀の一つである春季皇霊祭という祭日であり、今でも宮中では厳肅に斎行され、歴代天皇・皇族の御霊がお祀りされている。

天文学的に見れば、春分の日には太陽が春分点、すなわち黄経〇度を通過する日を指す。

太陽が真東から昇り真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ等しくなる。冬の厳しさがやわらぎ、大地に新たな生命の息吹が感じられる頃であり、自然界における大きな節目である。秋分の日とともに、お彼岸の中日にあたり、「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、昔から人々はこの日を季節の転換点として受け止めてきた。

神道には彼岸という概念はない。しかし、仏教伝来以前から農耕を営んできた日本人は、太陽の運行と四季の巡りを生活の基盤としてきた。春は田植えの準備を始める、秋は収穫を迎える時期である。その節目にあたり、太陽の恵みに感謝し、祖先の御霊に豊穰と安寧を祈る心が自然と育まれてきた。こうした祈りは御霊祭りと呼ばれる、春と秋の同じ時期に祖先をお祀りするようになったのである。

私たちの命は、自らのみで完結するものではない。遠い祖先から連綿と受け継がれ、今の自分がある。その命のつながりに思いを致すとき、自然の恵みと祖先の御加護への感謝の念は、おのずと深まる。春分の日には、単なる休日ではなく、自然と祖先、そして自らの命を見つめ直す機会である。

芽吹き季節にあたり、自然の大きいなる働きに感謝し、祖先の御霊に祈りを捧げる。その心を改めて確かめる日として、春分の日を大切に迎えたいものである。

※春季皇霊祭は明治十一年（一八七八年）に祝祭日として定められ、昭和二十三年（一九四八年）に春分の日へと改められた。

## 春季大祭 ご案内

一年に一度、虫干しを兼ねて宗像大社で所蔵する神宝や古文書を一般公開していた「保存会」に始まるお祭りです。農家の種蒔きの時期にあたり、一年の五穀豊穰を祈り、「主基地方風俗舞」、地元中学生による「浦安舞」が奉奏されます。

三月三十一日(火)

十七時 総社地主祭

十八時 宵宮祭

四月一日(水)

十一時 春季大祭  
(主基地方風俗舞奉奏)

四月二日(木)

十時 高宮祭、第二第三宮祭

宗像護国神社春季大祭

十一時 春季総社祭(浦安舞奉奏)



当社の御神酒を醸造する勝屋酒造(宗像市赤間)に展示されるひな飾り

## 桃の節句 ひな祭り

本来は「上巳じょうしの節句」といい、三月の最初の巳みの日を指していました。江戸時代に五節句のひとつに定められ、五月五日が男の子の節句であるのに対し、三月三日は女の子の節句となります。

「桃の節句」と呼ばれるようになったのは、旧暦の三月三日の頃に桃の花が咲くことや、桃は魔除けの効果を持つと信じられていたことと由来しています。雛壇は平安貴族の姿を模したのですが、雛人形の始まりのひとつに、平安貴族の子女の遊びとして「ひいな遊び」というのがあります。また雛人形は、昔の人形ひとがたや流し雛の風習の通り、お雛様に女の子の穢れを移して厄災を身代わりに引き受けてもらうためだとも言われています。

そんな子どもに災いが降りかからないようにという家族の願いや、人生の幸福が得られるようにという気持ちを込めて、雛人形を飾るようになりました。こうした風習が全国に広まり「桃の節句」「ひな祭り」として定着し

ました。

五節句は、奇数が重なる日を陽の重なりとして祝う中国の風習に由来し、季節の節目に無病息災や五穀豊穰、子供の成長を願う日本の伝統行事で、江戸時代に幕府により定められました。

**人日の節句(七草の節句)一月七日**

春の七草を入れた「七草粥」を食べ、新年の無病息災を願う。

**上巳じょうしの節句(桃の節句)三月三日**

女の子の健やかな成長を願い、雛人形や桃の花を飾る。

**端午たんごの節句(菖蒲の節句)五月五日**

祝日、こどもの日。男の子の成長と健康を願い、五月人形や鯉のぼりを飾り、菖蒲湯に入る。

**七夕しちせきの節句(笹竹の節句)七月七日**

星まつり。笹の葉に願いを込めた短冊を吊るし、書道や裁縫の上達を祈る。

**重陽ちゅうようの節句(菊の節句)九月九日**

菊を鑑賞し、菊酒を飲むなどして不老長寿や健康を願う。

地域とともに歩む  
「宗像みあれ市」 毎月開催



宗像の自然と文化を背景に、つくる人とい  
ただく人が出会う朝市「宗像みあれ市」を毎  
月開催しております。

旬の野菜や菓子、海の恵みなど、地域の方々  
が心を込めてつくった品々が並びます。人と  
人、人と自然を結ぶ場として、宗像大社門前  
にふさわしい健やかな賑わいを育んでいます。

毎月一回の継続開催を通して、地域とともに  
に宗像を盛り上げるとともに、十月開催予定  
の宗像みあれ芸術祭へとつながる取り組みです。

次回は三月二十一日(土)、四月十一日(土)  
いずれも午前十時頃～十四時頃、宗像大社境  
内・むなかた茶愉前にて開催いたします。

※開催日は天候等により前後する場合があります。

主催：宗像現代美術展実行委員会

公式ホームページ：<https://miare-art.com/>

※最新情報は公式Instagram

(CRUO)にてご確認ください。



@munakata.miareichi



# 神宝館だより 107

## 八万点ノ国宝収蔵

### 宗像社と海(了)

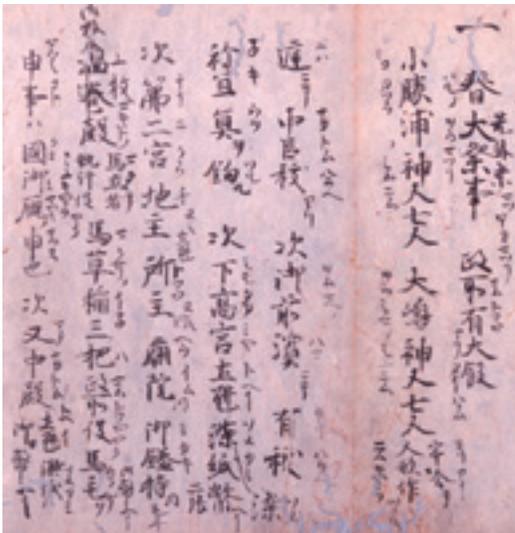
宗像大社の神事と言うと、秋に斎行されるみあれ祭を思い浮かべる方が多いだろう。みあれ祭は沖津宮の田心姫神、中津宮の湍津姫神を辺津宮の市杵島姫神のもとに迎える神事で、大船団が秋晴れの青い海を渡る壮麗な光景は、宗像社と海との深い関わりを感じさせる。

みあれ祭が中世宗像社における長手神事(御長手神事)を復興したものであることは、以前にもこの欄で紹介した。さらに史料からはこの他にも、海や、海から入る川と関連した祭りを見つけることができる。

室町時代の記録である「応安神事次第」は、宗像大社に伝来する神事記録の中でも神事の内容を特に詳細に記している。折角なので神事の細かな内容を目を向けると、四月一日の例祭では宗像領内の浦々から貝・鮑、魚、海

藻が納められたとあり、これに先んじて行われる春大祭では、前濱において祢宜が「魚ヲ釣ル」という儀式があったと見える。春の神事なので、浦々の豊漁祈願のために行われたものだろうか。「魚ヲ釣ル」。これ以上のことが書かれないため、詳しくは分からない。神事として釣りが登場する、少々珍しい、どこか素朴で和やかな、海辺の神社らしい一幕がある。

(津)



応安神事次第(春大祭の項)

### みこころ

早春の折、冬の寒さも一段落し、早いもので新年を迎えてから、あつという間に三月になりました。また、宗像大社に奉職して一年が経とうとしています。この一年、何事も初めての事ばかりで、ミスも多く迷惑をかけてしまいました。二年目は先輩達からご指導を頂いた事を生かして頑張りたいと思います▼三月三日は「桃の節句」です。「上巳の節句」とも言われます。上巳の節句とは、古代中国では、三月最初の巳日に邪気が入りやすいとされ、水辺で身を清め、穢れを祓う風習が由来とされます。その上巳の節句が日本に伝わり、平安時代の流し雛や雛遊びが結び付き、室町時代から江戸時代にかけて、「流す物」から「飾る物」へ変化しました。元々は男女問わず、子供の無病息災を願う日でしたが、徐々に女の子の成長を祝う行事へと変化していきました。桃の木は縁起が良く、病氣や災いを寄せ付けず、邪気祓いや不老長寿の木と言われています。また、お子様の健やかな成長と幸せな一年を願うという意味から桃の節句で桃が飾られるようになったと言われます▼これから一雨ごとに春が近くなり、桜の季節に移り変わります。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(自)

第775回 宗像大社歌会詠草 ■大西晶子選 ■毎月25日メ切(順不同)

上八と書いて「コウジョウ」という地名きつと誰かが写しまちがい 早川 祥三

宗像市の難読異名の上八。他の土地の人にはまず読めないだろう。どうしてこんな表記になったのかを考えた作者はどこかで写し間違いがあったと考察したのだ。四句を(きつと誰かの)に。

頭蓋を両手で包みつぶやけり我のすべてはこの中にあり 東 雅子

人はほとんどの行動や思考を脳に支配されている。自解によれば物忘れや小さなミスが増え、作者は認知症を恐れていたようだ。脳のある頭蓋を両手で包み大切さを感じている作者の歌。

鳥渡る岬の断崖手をひろげひとけり我は群れの中なり 吉崎美沙子

現実で断崖から飛び出すことは出来ないが、想像のなかで渡り鳥の群れの一羽になって飛び立つのは夢がある。作者は仲間と一緒に未知の場所へ飛び発つ若い渡り鳥の気分だったのだろう。

大社には春まだ浅き庭内に梅花咲きて美しき哉 秋吉 嘉範

梅の花が美しく咲く早春の宗像大社を詠んだ一首。作者は梅が咲き始める立春前後をイメージしたのだろうか。梅とまだ寒い季節が詠まれ、齋庭の引き締まった空気を感ぜさせる一首。

膝を打ち杖つく人の仲間入りそり歩けば山茶花微笑む 本田エリナ

杖が必要になった作者はたぶん老いを感じたのだろう。まだそこまでの高齢だとは思えない作者だが膝をかばいながら歩く自分を哀しみながらも山茶花を美しいと思う余裕があったようだ。

シリーズで日本アメリカ同じ日にテレビ見えた半かけの月 佐藤 守

同日にあったワールドシリーズと日本シリーズの野球中継で月を見た作者。野球であることが分かりにくいので(ワールドシリーズ、日本シリーズの中継で同じ日に見る半かけの月)としては。

初雪をかづきてゐたる水車小屋泉の若水汲みあげられず 佐々木和彦

元日は水車小屋にも雪で若水が汲み上げられなかったのだ。しかし水車小屋という場の設定でいかにも清浄な水の流れが想像できてしんと静かな元日の小川と小屋が目に見えるようだ。

帝国「明」帝国「清」に亡ぼさる皇國「倭」をも歴史は語る 山崎 公俊  
 皇國「倭」は軍国主義下で日本軍が起こした満州事変を思わせる。中国と戦争になれば太平洋戦争の時と同じように日本は敗れるだろう。かつての戦いの歴史をいままた学んでほしいと願う作者だと読んだ。

引越して近所となった旧友はツキイチで会う親友となる 堺 玲子

引越して知人の少ない土地に住む作者。しかし近くに旧友が住んでいることが分かり今では月に一度は会う親友になったのだ。ツキイチは古い短歌では不可だったと思うが今は許容範囲。

◆選者詠

雨の夜は入りくる馳もひとつ屋根わけてねむらん古きわが家にかみの晴れたある午後目が会ひき雨樋にたつ大き馳と

第745回 俳句

本年の帰郷年始は空家なり 早川 祥三

御造宮奉賛者御芳名 (令和八年一月 順不同・敬称略)

三、〇〇〇円	北九州市	土谷 ゆみ	六、五〇〇円	千代田区	高梨 実
一、〇〇〇円	阪南市	山中富士夫	五、〇〇〇円	筑後市	戸上 楽斗
	筑紫野市	許斐 英雄	二、〇〇〇円	横須賀市	今井 光伸
	川崎市	羅漢堂鍼灸治療院 阿賀青		神崎郡	大杉 康広
	筑後市	戸上 保子		会津若松市	小沼 恵之
	北九州市	赤木 慶三			

## 4月まつりごよみ

1日	春季大祭	午前11時
2日	高宮祭、第二宮第三宮、 宗像護国神社春季大祭 春季総社祭	午前10時 午前11時
15日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時
29日	昭和祭	午前11時

## 編集後記

二月十一日、紀元祭の祭典中、祭典整理のため本殿前に立っていると、「これは何のお祭りですか」と多くの方に尋ねられた。「建国記念の日にあたり、初代神武天皇が橿原の地にて即位されたことを奉祝する祭事です」とお答えしたが、ふと、学校ではどのように教えているのか気になった▼神武天皇即位の日を紀元とする日本独自の暦が皇紀であり、本年は皇紀二六八六年にあたる。世界には武力によって興亡を重ねてきた国も多いが、日本は古来より、天皇が祭祀を司り、祈りをもって国を治めるというかたちを守り続けてきた国である▼建国の由来に思いを致すことは、単なる歴史の回顧ではない。我が国がいかに成り立ち、何を大切にしてきたのかを見つめ直す機会である。次代を担う子どもたちにこそ、日本という国の歩みと精神を、正しく伝えていかなければならない。(鈴)